

モデル事業名	1つの浜松、もう1人の担い手「みさくぼ大好き応援団」の仕組みづくり
活動団体名	みさくぼ大好き応援団推進協議会 (NPO 法人魅惑的倶楽部、ここほれワンワン塾、NPO 法人地域づくりサポートネット)
ホームページ	HP http://www.exotic-club.jp/ ブログ http://www.exotic-club.jp
所属/ 担当者名	NPO法人地域づくりサポートネット 山内秀彦
連絡先	静岡県浜松市中区常盤町 133-13 電話 053-455-0220 Eメール info@shizuoka-t.net
活動地域	静岡県浜松市天竜区水窪町

● 活動地域の概要

- ー浜松市天竜区水窪町は、平成 17 年浜松市との合併により人口 82 万人の政令指定都市の最北端のまちとなった。
- ー浜松市人口 822,716 人うち水窪町人口 2,893 人（平成 22 年 1 月 1 日）、水窪町の人口推移 S30/100 H22/26.4、
- ー高齢化率 48.06%、15 歳未満 6.12%（平成 21 年 10 月 1 日）※40 歳以下を境に人口が大きく減少。



● 活動地域の課題

- ー水窪町合併後は若者の流出が進み高齢化が進行し、地域の担い手が不足し、将来に対する不安が大きくなっている。
- ー浜松市は合併・政令市移行により、水窪町の行政職員も大幅に削減され、地域住民の活動を支援する機会が減少。
- ー市民ボランティアによる市有林の管理コストをねん出してきた町の活性化イベントの委託事業の大幅に削減されることになり、森林の維持管理や地域間交流活動も維持が困難。過疎山間地の切り捨てと感じている住民もおり、公共的な事業を地域住民が継続的に担えるための“希望の光”が求められている。

● 活動の内容

<平成 20 年度>

①ワンワンの森(市有林)の管理と活用を通じた交流の仕組みづくり

地域住民が管理する市有林を都市部の市民との“交流の森”として利活用していく試行（グリーンツーリズム体験、環境学習）。



②みさくぼ大好き応援団人材発掘・仕組み研究

交流を通じてであった仲間の中から下流域（都市部）から上流の中山間地域の活動をサポートできる人・団体を増やしていく取組み。

③間伐材利用の森林環境保全の啓発と障害者福祉に貢献

間伐材を使った絵馬による環境と福祉のチャリティ事業「竜水護森木札」の持続・展開策を試行。



<平成21年度>

活動①：間伐材や特産物を利用した商品開発の研究

- － “森の恵み商品” の試作品作成（スイーツ2品を試作・PR、市内のホテルと協働で「自然食創作グルメ料理&特産品販売」を実施）
- － 試作品のテスト販売・PRの試行、販路開拓の研究（ヒアリング）
- － 森林の維持活動のために、NPOが「天竜の森と水を守る基金」を造成した。



【自然食創作グルメ実施・8月の2週間】

活動②：応援団の仕組みを活かしたオリジナル環境学習プログラムの構築

- － オリジナル環境体験・教育プログラム（エコツアー商品）の開発研究・試行
- － ワンワンの森を核とする親子参加型の環境体験・教育講座の開催

※20年度の間伐材利用促進の「竜水護森・木札」（絵馬）チャリティ事業は継続



【自然の中で中学生の思春期講座】

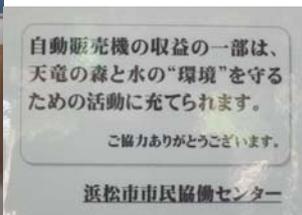
<平成22年度>

① 間伐材利用啓発「竜水護森木札」(チャリティ事業) ⇒継続

※浜松市市民協働センターも拠点施設に追加



市民協働センターの自動販売機での資金集め



市民協働センターで木札チャリティ・映画女優も協力

② ワンワンの森(市有林)の管理と活用を通じた交流 ⇒継続

- ・ 春、夏、秋に交流事業（花見、植樹、バーベキュー）
- ・ ワンワンの森（市有林）に水洗トイレの整備（水窪のメンバーの手作り）
- ・ 簡易作業所の整備（水窪のメンバーと都市部の応援団による手作り）

③ 応援団の仕組みを活かしたオリジナル環境学習プログラム

- ・ 市民協働センターの人材養成講座での体験
- ・ 三遠南信地域のコーディネーター養成（インターンシップ）で実地研修に活用

● **活動の成果**

＜平成20年度＞

－新聞への掲載、国土交通省のHP など全国から問い合わせがあり、環境保全、企業の協力、神社の協力、市民の協力により環境保全の啓発・障害者福祉への貢献が浸透していった。
(書籍にも事例紹介された)

－水窪の市民団体も自ら活動資金を稼ぎ出すための試行が始

まった。(オリジナル商品づくり、環境学習への取り組み)

－木札(絵馬)のチャリティ募金を取扱う協力店が拡大した。

－市有林(ワンワンの森)を市民交流の森とすべく、手づくりのバーベキュー小屋をつくり、交流の場ができた。



【木札募金の取扱店】



【ワンワンの森に交流の場】

＜平成21年度＞

活動①：間伐材や特産物を利用した商品開発の研究

－天竜・自然食グルメの継続・発展(水窪⇒天竜区全体へ)

※天竜商工会では「天竜の自然食」をテーマにした創作料理開

発、食のブランド化に向けた取り組み事例として「天竜・自然食グルメ」を参考に事業化の検討に入った。

－都市部の菓子店が水窪の資源(栃の実)を使った“スイーツ”を本格販売する方向で進んでおり、その収益金の一部を森を守る基金に寄付する流れができた。



【ヒノキの名刺入れ】



【ホテルの創作グルメ企画】

活動②：応援団の仕組みを活かしたオリジナル環境学習プログラムの構築

－ワンワンの森を利用した「森林環境学習」の体験プログラムを活用し、交流する団体などロコミで体験プログラムを使った事業を実施していくことになった。

－浜松市は本年度より「てんはまエコミュージアムの案内人」養成を始めたが、そのプログラムとフィールドの1つに加えられる。



【森林環境学習のプログラム構築】



【自然の中で中学生の思春期講座】



【自動販売機の設置】

－応援団として飲料水メーカー(サントリー・東海ペプシ)が自動販売機の設置協力があれば、売上に対して森林を守る基金への寄付を拠出してもらえるようになり、設置協力事業所(3事業所、5箇所)も出てきた。

－水窪の地域イベント(ヤマメつかみどり大会、水窪商店街の七夕まつり)に大好き応援団として運営協力、賑わい創出に関わるようになり、森林管理だけでなく、地域の担い手のサポートを行うようになってきた。



<平成22年度>直近1年間の成果など

● 応援団が広がる

オール浜松を舞台にした映画「青い青い空～書道ガールズ～」の主演女優も協力

● 水窪⇒天竜川流域へ拡大

市民・企業・行政が協働して「天竜川ネットワーク」の形成へ

(2010.10.16 天竜川浜名湖フォーラムで提案)

● 指定浜松市市民協働センターの人材養成講座で場所とプログラムを活用



【チェーンソー体験】



【シイタケの菌打ち体験】



【森の説明】

● 今後の課題及び展望

◎課題

- 一地域のコミュニティの維持管理や活動の継続に対し、その財源は年々減少し、安定財源の確保に頭を悩ませている。
- 一みさくぼ大好き応援団の構成団体が、それぞれ地域の活動を継続していくために、多様な団体等と協働して様々な活動助成等の情報を得て、それぞれで活動している。そのことによって、推進協議会として一緒に活動する機会が少なくなっている。
- 一間伐材の木札による環境・福祉チャリティ活動は、10年目を迎えているが、都市部の住民への浸透はまだ道半ば。
- 一行財政改革が進み、効率化を重視する動きは定着したものの、過疎地域には水窪町のワンワン公園(市有林)をはじめとして、“自立”、“経済合理性”の発想では解決できないことが数多く出ており、住民の力だけではどうにもならないことがあちこちで発生している。そのため、



◎展望

- 一水窪との連携活動は、継続していく予定であるが、水窪以外の地域(上流域・過疎地域)も様々な課題を抱えており、その課題解決に向けて天竜川・天竜区全域などを見据えて市民レベルの草の根運動を市民協働センターとして協力して展開していく予定である。
- 一たとえば、平成22年度は、都市部の構成団体(2団体)が浜松市市民協働センターの指定管理者となり、過疎が進行する天竜区の各地を訪ね、地域づくりの実践的な人材養成講座を実施した。その中で水窪の問題だけでなく、様々な地域を訪ね現状や課題を学んだ。天竜区春野町地区にある県立青少年山の村(43ha)が維持管理コストがかかるため、閉鎖されてしまい、地域住民が自らNPOを組織し、維持管理している。しかし、その補助も23年度から打ち切られることから、この施設の存続・跡地活用に対し、地元が危機感を募らせ、都市部の市民・企業が協働して民間が県から買い取り、民間で利活用していく提案を検討している。この提案を、天竜区長や企業などに提案していく。
- 一天竜川の上下流の活動団体や企業が連携していくプラットフォームとして「天竜川ネットワーク」を立ち上げていくことになった。NPO法人地域づくりサポートネットが中間支援として事務局を務めている。このことにより、水窪も含め天竜川の上下流の市民が協働して連携の輪を広げていくことになった。23年度は浜松市の市制100周年にあたり、その記念事業として民間提案プロジェクト(100万円の助成金)にエントリーし、活動を展開していきたいと考えている。
- 一構成団体が、静岡県緊急雇用対策事業の民間提案に応募し採択され、1年間かけて『川筋文化』の地域資源(自然・歴史・産業・暮らし)を調査・発信し、エコツーリズムの試行など観光に活用していく取組みを行っていくことになった。
- 一水窪(ここほれワンワン塾)も、南信州側が取り組む「秋葉街道信遠ネットワーク」にも参画し、秋葉街道で連携する取組みを行うなど、様々な主体との連携の輪が広がっている。
- 一平成22・23年度には、内閣府の地域社会雇用創造事業として地域の県境を越える「三遠南信地域インターンシップ事業」を実施し、水窪の山林でも活動プログラムを実施するなどの活用していく。

